

1992年日本・中国ナムチャバルワ合同登山

重 廣 恒 夫

登山隊の目的

- ① 世界最高の未踏峰 ナムチャバルワ峰の初登頂
- ② 日中協力による友好の醸成と登山技術の研鑽
- ③ 日中国交正常化20周年を記念する

登山計画

- ① 登山ルート ナイプン峰経由の南壁ルート
- ② 登山期間 1992年9月15日～11月6日
- ③ 登山方法 無酸素 ポーラーメソッド

登山概要

ナムチャバルワ峰(7782m)は、ヒマラヤ山脈東端の北緯29°37'51"東経95°3'31"に位置する未踏の最高峰である。

主峰から長大な尾根が西北西と東北東にそれぞれ派生しており、南面には鋭く切り立った稜が落ち、ナイプン峰(7043m)に続いている。ナイプン峰と主峰との間のコルは深さ200mにも達し斜度は80度にもなる。

登山隊はナムチャバルワの南西山麓、白く輝く鋭峰を眼前に望む標高3520mの最奥の村接地当腹の放牧地に大本営(ベースキャンプ)を設けた。そして右側の谷に入り、原生林を抜けてC1(4350m)を設営、さらに谷沿いの道を進みC2(4800m)に至った。いよいよ氷河に入り、南南西稜に喰い込むルンゼ(ラバロ)にルートを探り、350mの岩稜を登ってC3(5600m)を設けた。そしてナイプン峰へと長大な雪の斜面が続く尾根上にC4(6200m)を設けた後、ナイプン峰直下にC5(6900m)を建設、最低コルに下降して最終キャンプ(6700m)を設営した。コルから右の氷雪壁にルートを探り、最後に7350mから7450mにあるロックバンドを通過、状態の悪い氷雪壁から雪稜をたどり頂上に到達した。

登山活動の組織

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 総顧問 | 日本側：櫻内義雄 田口二郎 堀田彌一 宇都宮徳馬 小林與三次 |
| | 中国側：伍紹祖 江村羅布 |
| 名誉総隊長 | 日本側：橋本龍太郎 中国側：史占春 |
| 総隊長 | 日本側：山田二郎 中国側：洛桑達瓦 |
| 副総隊長 | 日本側：齊藤惇生 中国側：王鳳桐 |

1. 高所登山の実践と今後の課題

総指揮部 双方の総隊長、副総隊長により編成する。

登山隊

(日本側)

登山隊長 重廣 恒夫 (45歳)

'76年ナンダデヴィ東峰 '77年K2 '79年ラトックI峰 '80年チョモランマ
'84年カンチェンジュンガ縦走 '85年マッシュャーブルム '85年ブロードピーク
'90年ナムチャバルワ偵察 '91年ナムチャバルワ

登攀隊長 山本 一夫 (46歳)

'69年マッキンレー '76年ラムジュンヒマール '84年ガウリサンカール

登攀隊員 三谷統一郎 (通信・タクティクス) (36歳)

'78年アンナプルナ南峰 '82年ダウラギリI峰 '84年カンチェンジュンガ
'85年チャー・オー '89年サガルマータ

登攀隊員 青田 浩 (食糧) (34歳)

'81年アンナプルナ '84年レーニン '85年クスムカングル '86年冬期プモリ
'87年マッキンレー '90年アコンカグワ '91年ビンソンマシュフ

登攀隊員 山本 篤 (食糧) (30歳)

'88年シシャバンマ '88年チャー・オー '89年サガルマータ
'91年ナムチャバルワ

登攀隊員 佐藤 正倫 (装備、雑具) (29歳)

'86年昆崙山脈7167峰 '90年ナンガバルバット '90年ナムチャバルワ偵察
'91年ブロードピーク

気 象 飯田 肇 (37歳)

'82年ランタン・ヒマール, ヤラ氷河 '82年アンナプルナ山群 '84年カンチェンジュンガ
'84年ナンガバルバット '85年ランタン・ヒマール '90年ヌンブール周辺
'89年クンブヒマール '92年ノルウェーリ, リグフオーン

マネージャー 梶田 正人 (31歳)

通 訳 '91年ナムチャバルワ

医 師 小島 彰 (31歳)

'85年ナムシュラ '91年ナムチャバルワ

(中国側)

登山隊長 桑 珠 (Sang zhu) 36歳

'75年チョモランマ '77年トムール '86年ニンチンカンサ

1. 高所登山の実践と今後の課題

'90年ナムチャバルワ偵察 '91年ナムチャバルワ

登攀隊長 加 布 (Jiabu) 34歳

'81年シジャパンマ '83・'84年ナムチャバルワ (ナイブン峰) '85年ナムナニ

'86年ニンチンカンサ '90年ナムチャバルワ偵察 '90年チョモランマ

'91年ナムチャバルワ

登攀隊員 次仁多吉 (Cirenduoji) 36歳

'83・'84年ナムチャバルワ (ナイブン峰) '85年ナムナニ '86年チャンツェ

'88年チョモランマ '91年シジャパンマ '91年ナムチャバルワ

登攀隊員 辺巴扎西 (Bianba zaxi) 28歳

'85年チョー・オェー '86年ニンチンカンサ '90年ナムチャバルワ偵察

'91年ナムチャバルワ

登攀隊員 大 齊 米 (Da Qimi) 36歳

'85年ナムナニ '86年ニンチンカンサ '92年チョモランマ

登攀隊員 達 琼 (Da Qiong) 31歳

'86年チャンツェ '87年ラブチュカン '90年チョモランマ

登 攀 史

1879年、バンディットのネム・シンが初めて遠くからナムチャバルワを望見。

1912年、英人モーズヘッド大尉らが7755mと測量

1913年、モーズヘッド大尉とベイリー中佐は、ヤルツァンポ河の大屈曲点を探る折、初めて近くからナムチャバルワを見た。

1924年、英人キングドン・ウォードとカウダーがヤルツァンポ河のゴルジュ帯を一周。

1936, 38, 46~47年、英人フランク・ラッドロウとジョージ・シェリフが植物学上の探検をナムチャバルワ周辺で行った。

1960年12月、チベット登山隊により調査が行われ、同隊はヤルツァンポ河屈曲部をギャラまで入り、南稜を5000mまで試登。

1982年3月下旬から5月中旬にかけて、中国登山協会隊が南稜、東稜、西稜、西壁にルートを探り、南稜上ナムラ峠に到達。

同年、7月から10月、中国科学院により学術調査隊員(28名)、登山隊員(16名)からなる調査隊が派遣された。

1983年3月から4月、西稜及び前衛ナイブン峰(7043m)の西稜と南稜を試登し、4月21日リンチェンピンゾーら7名がナイブン峰に登頂。同年、6月から9月にかけて、第三次大規模学術調査として、学術隊員など50人の関係者が派遣された。

1. 高所登山の実践と今後の課題

1984年3月から5月、中国ナムチャバルワ登山隊を派遣するが主峰に至る南稜鞍部への下降ルートが見い出せず、登頂を断念。

合同登山の歩み

(' 90年)

11月15日～12月15日 日本・中国が合同で偵察、ナイプン峰の6900mに到達、ナムチャバルワ峰へのルートを確認。

11月25・26日 小型ジェット機により空からの偵察を行った。

(' 91年)

5月1日 日中合同登山隊の議定書に調印。

9月24日 日本隊ラサ入り、中国隊と合流。

30日 BC開村。

10月16日 C 4建設予定地点へ前進中、大西宏隊員が雪崩に巻き込まれ死亡。

11月11日 アタック隊を編成。

20日 降雪のため第一次アタックに失敗。

22日 再アタックも流雪に阻まれる。

24日 登頂断念。撤退を決定。

(' 92年)

3月7日 日中・合同登山隊の再挑戦が決定。

9月2日 日本隊が中国へ出発。

6日 中国隊とラサで合流。

14日 BC開村式。

15日 4350m地点にC 1建設。

16日 C 2を4800m地点に建設。

23日 5600m地点にC 3を建設

30日 C 4を6200mに建設。

10月1日 C 5へのルート工作完了。

9日 15日を登頂予定日に第一次アタック隊6人がC 3を出発。

11日 同隊が6900m地点にC 5を建設。

13日 悪天候が続き、登頂予定を17日に変更。

15日 悪天候のため、アタック隊はC 3へ下山。

17日 アタック態勢を再検討。23日の登頂を目指す。

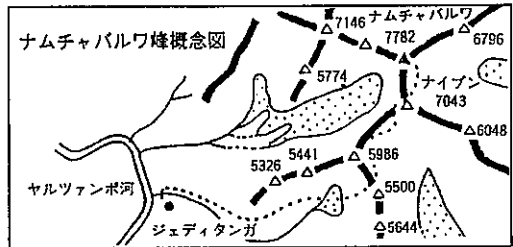
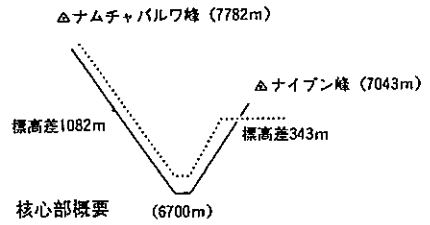
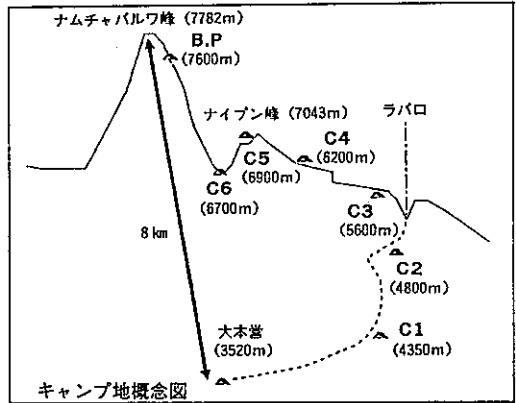
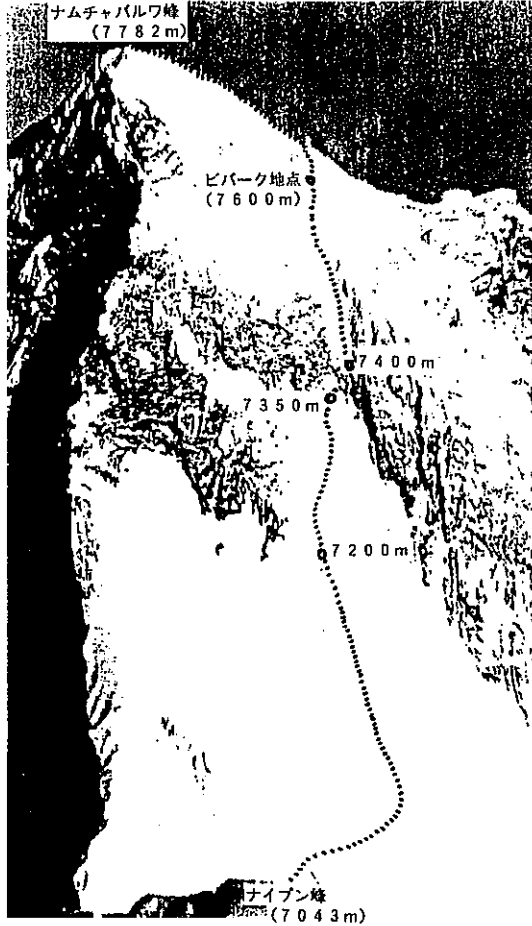
18日 第一次アタック隊がC 4入りし、再び頂上への挑戦を開始した。

1. 高所登山の実践と今後の課題

- 19日 降雪のためC4で足踏み。
- 21日 悪天候が続きC2へ撤退。
- 22日 29日登頂に計画変更。
- 24日 アタック活動を再開, C3入り。
- 25日 C4再建。
- 26日 11日ぶりにC5を再建。
- 27日 アタック基地となるC6を建設。
- 28日 7200m地点までルート工作。頂上アタックに備える。
- 29日 ロックバンドをこえ, 7600mでビバーク。
- 30日 第一次, 第二次アタック隊員11人が初登頂に成功。
- 11月7日 BCを離れる。
- 17日 北京市の人民大会堂にて祝賀会開催。
- 18日 日本隊帰国。
- 19日 総隊長以下11人, 文部大臣よりスポーツ功労者として表彰される。
- 27日 東京・帝国ホテルにて中国からの代表団13人を迎え, 祝賀会開催。

1. 高所登山の実践と今後の課題

航空写真(標高9000m)を使用



1. 高所登山の実践と今後の課題

ナムチャバルワ峰 各キャンプ荷上表

	B・C 3520m	C1 4350m	C2 4800m	C3 5600m	C4 6200m	C5 6900m	C6 6700m	合計
最大収容人員		12	20	20	9	8	8	
延べ滞在人員	186	72	320	250	66	44	56	994
露営具		82	174	53	40	48	37	434
(雑具含む)	434	434	352	178	125	85		
食料	240	117	618	440	112	87	104	1718
(ガスボンベ含)	1718	1478	1361	743	303	191		
燃料	248	96	427	326	80	59	67	1303
(ガスボンベ数)	1303	1055	959	532	206	126		
登攀具			99	28	19	14	88	248
	248	248	248	149	121	102		
通信機関係	100	7	65	30	6	9	6	223
	223	123	116	51	21	15		
医療用品	72		32					104
	104	32						
酸素器具				30		20		50
	50	50	50	50				
写真機材	10		30	10	5	5		60
	60	50	50	20	10			
気象観測機材	50			50				100
	100	100	100					
個人装備								1500
	1500							
各キャンプ重量	1972	206	1018	641	182	183	235	4437
累積重量	4437	2465	2259	1241	600	418		
読売新聞社								2080
N H K								727
総合計								(3765) 6200

1. 高所登山の実践と今後の課題

キャンプ別荷上げ重量表 (登攀具)

キャンプ 品名	B・C 3520m	C1 4350m	C2 4800m	C3 5600m	C4 6200m	C5 6900m	C6 6700m	B・P 7200m	合計
フィックスR 9m×50m			12 33.6						12 33.6
フィックスR 10m×200m						1 15.0			1 15.0
フィックスR 8m×50m			9 22.5	2 3.0	4 10.0		15 37.5	5 12.5	35 85.5
登攀用R 9m×50m								2 5.6	2 5.6
登攀用R 7m×60m			1 2.7					4 10.8	5 13.5
スノーバー			5 2.0	5 2.0	5 2.0	15 6.0	30 9.0	5 1.3	65 22.3
アイスハーケン			31 4.7			10 1.5	10 1.5	20 3.0	71 10.7
ロックハーケン			10 0.7					30 2.1	40 2.8
シュリング 6m×1・5m			10 1.0		5 0.5	5 0.5	20 2.0	10 1.0	50 5.0
テープシュリン ゲ 15m×1・3m			13 1.3	5 0.5	5 0.5	10 1.0	10 1.0	4 0.4	47 4.7
カラビナ			22 1.3	3 0.2	5 0.3	30 1.8	20 1.2	10 0.6	100 5.40
赤 はた			20 2.0	50 5.0	50 5.0	30 3.0			150 15.0
			219.1	147.3	136.6	118.3	89.5	37.3	219.1

1. 高所登山の実践と今後の課題

ナムチャバルワ峰 BC (3520m) 気象概況

月日	時刻	天気	風速	気温 ℃	湿度 %
09/11	06:00				
	09:00				
	12:00				
	15:00	●	10		
	18:00	●	10		
	21:00	●	10		
09/12	06:00	●	10	8.8	
	09:00	●	10	9.4	
	12:00	○/●	10	14.5	
	15:00	○	10	13.9	
	18:00	○	10	10.4	
	21:00	○	10	10.3	
09/13	06:00	●	10	9.3	93
	09:00	●/○	10	11.3	88
	12:00	○	8	17.5	60
	15:00	○	10	16.9	73
	18:00	○	10	11.5	86
	21:00	○	10	11.2	89
09/14	06:00	●/○	10	9.2	89
	09:00	○/●	10	9.2	87
	12:00	○	7	13.7	67
	15:00	○	7	19.1	50
	18:00	○	9	14.8	63
	21:00	○	10	10.3	93
09/15	06:00	○/●	10	9.3	89
	09:00	○/●	10	9.3	91
	12:00	●	10	11.2	91
	15:00	○	10	15.5	69
	18:00	○	10	15.7	63
	21:00	○	10	10.3	77
09/16	06:00	●	10	8.4	84
	09:00	●	10	8.0	88
	12:00	○	9	10.5	75
	15:00	○	7	16.1	59
	18:00	○	7	16.4	54
	21:00	○	8	9.3	88
09/17	06:00	○	10	8.1	82
	09:00	○	10	8.2	84
	12:00	○	10	11.7	77
	15:00	●/○	10	14.8	71
	18:00	○	8	15.8	61
	21:00	○	8	9.7	80
09/18	06:00	○	8	8.2	82
	09:00	○	8	7.8	87
	12:00	○/○	8	12.8	77
	15:00	●	9	15.0	69
	18:00	○	8	19.1	53
	21:00	○	5	9.3	87
09/19	06:00	○	5	6.8	95
	09:00	○	5	7.1	94
	12:00	○	5	14.0	67
	15:00	○/●	9	20.6	45
	18:00	○	9	14.5	58
	21:00	○	3	12.2	61
09/20	06:00	○	9	7.3	91
	09:00	○	8	6.9	94
	12:00	○	5	12.5	74
	15:00	○	5	20.8	42
	18:00	○	9	19.0	50
	21:00	○	2	10.7	75

月日	時刻	天気	風速	気温 ℃	湿度 %
09/21	06:00	○	0	7.0	84
	09:00	○	1	5.6	88
	12:00	○	1	14.5	56
	15:00	○	3	22.1	30
	18:00	○	2	21.3	34
	21:00	○	2	12.1	60
09/22	06:00	○	5	8.3	87
	09:00	○	5	7.5	96
	12:00	○	3	16.0	52
	15:00	○	3	22.6	34
	18:00	○	5	19.1	40
	21:00	○	5	11.2	65
09/23	06:00	○	0	6.6	77
	09:00	○	0	5.8	78
	12:00	○	5	15.3	45
	15:00	○	8	19.6	30
	18:00	○	8	20.8	34
	21:00	○	2	11.6	67
09/24	06:00	○	5	7.8	80
	09:00	○	3	7.1	84
	12:00	○	3	15.2	58
	15:00	○	8	21.2	33
	18:00	○	5	20.7	34
	21:00	○	1	11.3	61
09/25	06:00	○	2	7.5	76
	09:00	○	5	7.2	73
	12:00	○	5	15.3	52
	15:00	○	8	18.9	43
	18:00	○	10	17.2	48
	21:00	○/●	10	10.4	66
09/26	06:00	○	10	7.3	82
	09:00	○	10	7.1	82
	12:00	○/●	10	8.4	84
	15:00	●	10	12.0	73
	18:00	●	10	9.3	88
	21:00	●	10	8.1	84
09/27	06:00	○	10	6.8	93
	09:00	○	10	6.7	95
	12:00	○/●	10	9.7	88
	15:00	●	10	6.7	94
	18:00	●	10	4.7	91
	21:00	●	10	4.3	90
09/28	06:00	○	10	3.9	93
	09:00	○	10	3.5	95
	12:00	○	9	7.9	88
	15:00	○	8	12.8	69
	18:00	○	8	16.9	39
	21:00	○	5	9.1	61
09/29	06:00	○	10	4.9	93
	09:00	○	9	4.9	93
	12:00	○	3	13.0	57
	15:00	○	5	18.9	36
	18:00	●	10	11.1	59
	21:00	○	9	5.7	93
09/30	06:00	○	8	5.1	88
	09:00	○	8	4.5	90
	12:00	○	6	11.2	58
	15:00	○	8	14.9	52
	18:00	○	5	18.4	43
	21:00	○	4	9.4	77

1. 高所登山の実践と今後の課題

月日	時刻	天気	雲量	気温 ℃	湿度 %
10/01	06:00	○	7	6.2	93
	09:00	○	8	6.1	92
	12:00	○	4	13.2	65
	15:00	○	10	14.6	67
	18:00	○	7	14.3	66
	21:00	○	7	9.4	84
10/02	06:00	○	6	6.4	88
	09:00	○	9	6.1	86
	12:00	○	4	10.3	80
	15:00	○	10	18.2	52
	18:00	○	10	11.9	73
	21:00	○	8	7.7	95
10/03	06:00	○	6	7.2	87
	09:00	○	6	6.3	91
	12:00	○/●	6	11.8	73
	15:00	○/●	10	17.6	49
	18:00	○	8	10.8	73
	21:00	○	7	7.5	93
10/04	06:00	○/●	8	6.9	87
	09:00	○/●	8	6.3	88
	12:00	○	10	11.1	62
	15:00	○	5	19.0	37
	18:00	○	4	13.6	49
	21:00	○	8	7.5	69
10/05	06:00	●	10	5.1	77
	09:00	○/●	10	4.5	83
	12:00	○	8	7.6	82
	15:00	○	7	13.0	56
	18:00	○	7	13.2	54
	21:00	○	8	6.6	72
10/06	06:00	○	9	4.9	82
	09:00	○	8	4.7	84
	12:00	○	6	8.2	77
	15:00	○	8	16.4	40
	18:00	○	4	11.5	69
	21:00	○	6	6.5	69
10/07	06:00	○/●	9	4.5	89
	09:00	●	9	3.5	96
	12:00	○	6	8.4	75
	15:00	○	5	14.1	56
	18:00	○	4	14.6	55
	21:00	○	6	5.5	89
10/08	06:00	○	8	5.0	79
	09:00	○	5	4.0	94
	12:00	○	4	12.7	58
	15:00	○	4	16.8	44
	18:00	○	6	15.0	47
	21:00	○	0	9.9	55
10/09	06:00	○	0	4.6	86
	09:00	○	0	3.7	90
	12:00	○	3	11.6	67
	15:00	○	3	19.3	31
	18:00	○	6	17.1	41
	21:00	○	5	9.3	60
10/10	06:00	○	3	5.0	79
	09:00	○	3	4.0	84
	12:00	○	8	11.2	58
	15:00	○	9	15.6	46
	18:00	○	5	13.7	49
	21:00	○	8	7.5	82

月日	時刻	天気	雲量	気温 ℃	湿度 %
10/11	06:00	○	9	4.4	91
	09:00	○	5	4.7	94
	12:00	○	9	13.0	57
	15:00	○	6	13.9	53
	18:00	○	4	13.2	55
	21:00	●	10	8.0	79
10/12	06:00	●/▽	10	4.5	94
	09:00	●	10	4.0	91
	12:00	●	10	7.0	96
	15:00	●	10	8.3	90
	18:00	●	10	8.3	92
	21:00	●/▽	10	6.1	88
10/13	06:00	●	10	5.0	99
	09:00	○	10	4.5	97
	12:00	○	6	7.6	90
	15:00	●	10	17.2	46
	18:00	○	8	7.3	87
	21:00	○	8	5.6	90
10/14	06:00	●/▽	10	4.0	98
	09:00	●/▽	10	2.5	98
	12:00	○	10	3.1	97
	15:00	○	8	8.1	80
	18:00	○	7	10.7	81
	21:00	○	5	6.1	89
10/15	06:00	●	10	3.6	97
	09:00	○	4	3.2	97
	12:00	○	5	7.3	82
	15:00	●	10	15.7	38
	18:00	○	6	8.4	7
	21:00	○	3	5.3	76
10/16	06:00	●/▽	10	2.3	97
	09:00	●/▽	10	1.6	97
	12:00	●/○	10	4.6	9
	15:00	●/○	10	9.0	84
	18:00	●/▽	10	4.0	97
	21:00	●/○	10	1.9	98
10/17	06:00	○	8	1.8	99
	09:00	○	8	1.3	99
	12:00	○	4	5.7	99
	15:00	○	3	13.9	49
	18:00	○	2	13.5	48
	21:00	○	0	6.7	65
10/18	06:00	○	10	3.5	83
	09:00	○	10	3.7	83
	12:00	○	9	5.8	82
	15:00	○	9	12.0	50
	18:00	○	10	13.1	49
	21:00	○/●	10	6.6	81
10/19	06:00	○/●	10	4.7	81
	09:00	○	9	3.9	85
	12:00	○	8	8.1	66
	15:00	○	6	12.8	53
	18:00	○	5	14.6	47
	21:00	○	7	5.2	84
10/20	06:00	○/●	8	2.5	95
	09:00	○	9	2.5	97
	12:00	○	9	4.5	94
	15:00	○	7	13.1	60
	18:00	○	7	11.5	56
	21:00	○/●	7	4.2	62

1. 高所登山の実践と今後の課題

月日	時刻	天気	雲量	気温 ℃	湿度 %
10/21	06:00	●/○	10	1.4	97
	09:00	○	10	0.9	98
	12:00	○	4	3.8	98
	15:00	○	10	10.4	59
	18:00	○	8	11.4	50
	21:00	○	4	4.9	73
10/22	06:00	○	0	2.2	82
	09:00	○	2	1.3	83
	12:00	○	3	8.4	59
	15:00	○	3	14.5	36
	18:00	○	5	13.8	40
	21:00	○	5	6.2	66
10/23	06:00	○	8	3.2	79
	09:00	○	8	2.8	83
	12:00	○	9	7.4	86
	15:00	○/●	8	8.7	93
	18:00	○	6	7.6	43
	21:00	○	4	4.8	38
10/24	06:00	○/⊙	10	0.2	56
	09:00	○	9	-0.3	63
	12:00	○	8	3.8	81
	15:00	○	10	7.1	59
	18:00	○	9	7.1	55
	21:00	○	10	1.8	88
10/25	06:00	○/⊙	10	0.3	76
	09:00	○	8	-0.2	91
	12:00	○	8	3.4	67
	15:00	○	4	10.5	45
	18:00	○	5	11.8	41
	21:00	○	8	3.7	67
10/26	06:00	○	6	1.9	76
	09:00	○	6	1.5	72
	12:00	○	4	6.3	62
	15:00	○	5	7.5	53
	18:00	○	5	6.6	53
	21:00	○	7	2.3	66
10/27	06:00	○	2	-1.6	68
	09:00	○	3	-3.4	95
	12:00	○	4	7.3	48
	15:00	○	5	14.2	28
	18:00	○	3	11.6	36
	21:00	○	5	4.5	52
10/28	06:00	○	0	-1.4	71
	09:00	○	0	-2.4	72
	12:00	○	3	5.2	54
	15:00	○	3	14.0	27
	18:00	○	3	13.2	33
	21:00	○	0	5.6	50
10/29	06:00	○	0	1.1	66
	09:00	○	0	-1.1	72
	12:00	○	1	6.5	46
	15:00	○	3	14.0	23
	18:00	○	4	14.3	32
	21:00	○	8	6.5	51
10/30	06:00	○	4	1.3	71
	09:00	○	7	0.7	76
	12:00	○	3	4.1	82
	15:00	○	8	14.6	28
	18:00	○	5	7.3	50
	21:00	○	3	2.9	66

月日	時刻	天気	雲量	気温 ℃	湿度 %
10/31	06:00	○	0	-1.2	82
	09:00	○	3	-1.1	82
	12:00	○	3	4.5	60
	15:00	○	6	12.7	22
	18:00	○	5	13.4	28
	21:00	○	2	4.8	54
11/01	06:00	○	0	-0.8	64
	09:00	○	0	-0.3	68
	12:00	○	5	5.9	48
	15:00	○	8	14.1	27
	18:00	○	4	13.4	36
	21:00	○	4	5.0	56
11/02	06:00	○	6	3.0	50
	09:00	○	4	1.8	57
	12:00	○	7	7.9	37
	15:00	○	10	15.3	25
	18:00	○	10	12.7	38
	21:00	○	10	2.2	90
11/03	06:00	⊙	10	-0.2	97
	09:00	○	10	-0.3	97
	12:00	○	10	1.9	90
	15:00	○	7	8.0	61
	18:00	○	8	5.4	60
	21:00	○	10	0.3	99
11/04	06:00	⊙	10	-1.0	95
	09:00	○	8	-1.0	96
	12:00	○	8	3.8	78
	15:00	○	7	8.1	59
	18:00	○	7	9.6	52
	21:00	○	4	3.4	59
11/05	06:00	○	4	1.4	69
	09:00	○	4	0.6	74
	12:00	○	5	8.8	61
	15:00	○	5	17.3	51
	18:00	○	5		
	21:00	○	7		
11/06	06:00	○	6		
	09:00	○	4		
	12:00	○	8		
	15:00	○	10		
	18:00	○	10		
	21:00	○	10		
11/07	06:00	○	7		
	09:00	○	5		
	12:00	○	4		

○ 晴 ☉ 曇 ● 雨 ⊕ 雪

データ収集

自動気象観測システム（気象ロボット）をBC（3520m）およびC3（5600m）において、気温、湿度、風向、風速、気圧、雪温勾配の1時間毎の自動計測を使用してBCで毎日回収した。

1. 高所登山の実践と今後の課題

ナムチャバルワ峰初登頂の軌跡

1. 1991年の敗退

1990年12月の試登の折りには、ベースキャンプから8日間というスピードで到達した6900mの肩への登高も、南稜の深いラッセルに悩まされ、10月16日ここしか通過出来ないというルートで雪崩が発生、隊の先頭にたっていた大西隊員を失ってしまった。

10月末の登山再開後モンスーンの終結により南下して来た強風帯のためにその登高は遅々として進まなかった。ただし隊員達の登高意欲は旺盛で、短い好天を逃さずにジリジリと頂上に迫った。

しかし11月22日、最も難しいと思われていたロックバンドを登り切った後、頂上付近を通過する強風がもたらす風成雪は流雪（大きなスノウシャワー）となって登高中の隊員達に襲いかかり、頂上を越えた強風は逆まく風となって下から雪を吹き上げる様はまさに洗濯機の中で翻弄される蟻の様であった。

11月24日、食料・装備の不足、一部の人達の登高意欲の減退により登山の続行を断念せざるを得なかった。

2. 1992年のタクティクス

昨年の失敗の原因は登山開始時期の遅さにあり少ないチャンスをもものに出来なかったことにある。

さらに資料の集積をおこない、その分析の結果10月の中旬の4～5日程度が登頂のチャンスが多いということが導き出された。従って以下の行動計画を策定した。

- ① 日本からの出発を早め、9月中旬よりC2までの荷揚げを行う。
- ② 登山活動を3期に分け、第一期はBCからC1・C2の建設、C3へのルート工作・荷揚げ。
第二期はC3の建設、C4へのルート工作・荷上げ・C4建設、C5へのルート工作・荷揚げ。
第三期は、C5の建設・C6へのルート工作・荷下げ・キャンプ建設、そしてロックバンドへのルート工作・アタック。
- ③ 高所協力員6名を使用し、各キャンプへの物資の集結を確実に行う。
- ④ 登山隊は日中双方3名ずつの合計6名で2隊編成、2隊間の間隔は1キャンプとする。

その他、去年の反省として激しく変化する天候の移り変わりを的確につかむことが出来なかったことが敗因の一つとしてあったので、気象の担当者をスタッフとして加えた。

3. 1992年の成功の要因

- ① 登山活動の序盤は天候の小さな変化に助けられ、順調にルートを延ばすことが出来た。しかし、10月9日からの上部への行動はサイクロン通過の影響を受け、二度のアタックを断念せざるを得なかった。

ただ幸いなことに、モンスーン明け後の強風帯の南下、滞留の時期になっても昨年程の強風が

1. 高所登山の実践と今後の課題

吹かず、10月下旬の好天の到来を、日本気象協会の情報・ベースキャンプでの気象衛星“ノア”の直接受画像の分析等からの確に知ることが出来たこと。

- ② 高所協力員の支援を得ることによって、各キャンプへの必要物資の確保を行うことが出来、予想外の停滞に耐えることが出来た。
- ③ ロックバンドまでのルート工作、登頂時にビバークの準備を行うことによって、時間切れによるC6への往復の回数を少なくしたこと等が上げられるが、いずれにしても日本と中国の隊員の相互理解と、登高意欲の持続が最終アタックの時雪面下2mに埋まったC5を掘り出す頑張りと、7600m地点でのビバークを可能にして大量登頂を確実にしたものである。

4. 終わりに

1990年ナイブン峰南稜のルートの試登、小型ジェット機による空からの偵察で雪の多い山だという印象が強かったが、ルートに関してそんなに難しい山だとは思わなかった。ただしその立地条件から気象の変化が大きく、登り難い山だという覚悟はあったが、慣れと状況の判断ミスによって大西隊員を失った事は悔やんでも悔やみ切れない。

全体の行動率を高めるために隊員の強い登高意欲が必要であるが、へたをすると事故につながる可能性も高くなる。

体力・気力の持続、天候の巡り合わせが登頂の可能性を高めるものとなる。そのために隊長としての仕事は隊員の登頂意欲の持続と安全登山の確保に集約されていたといっても過言ではない。

1990年の偵察から1991年の本隊、そして1992年の再アタックと3年に及ぶ歳月は登山が終わってみればあっと言う間の仕事であったように感じられるが、一つ一つ振り返ってみると何と長い道程であったらうか。

また考えようによっては大量の登頂者が出たということは登山が易しかったと思われがちであるが、特に合同登山においては双方の環境の違いによって日本側に負担がかかりがちであり、総合的な戦略が必要であった。

(ナムチャバルワ登山隊長)

1. 高所登山の実践と今後の課題

気 象 概 況

飯 田 肇

ナムチャバルワ峰は、その位置、地形条件から気象変化の特に激しい山として知られている。

ヒマラヤのモンスーンによる悪天は、通常5月下旬から10月上旬までであるが、この山域は特にモンスーンの影響を受けやすく、年により4月上旬から10月下旬までその影響下にあるといわれる。また、11月に入るとジェット気流の南下に伴う強風が吹き荒れ、晴天でも行動不能になるケースが多い。

従って、この山の登頂の適期は、10月中下旬のわずかなポストモンスーン期のみであり、本年の登山もその期間に照準をあわせて計画された。そのためには、モンスーン中に下部のルート工作・荷上げを実施しなければならず、本年のモンスーンの動向がまず問題になった。出発前のラサ気象局からの情報によると、本年のモンスーン入りは6月中旬と異例に遅く、実際入山後のBC周辺は乾燥していて、モンスーン期の降水量がたいへん少ないことがうかがえた。モンスーンの年々変動の大きさに驚かされるとともに、モンスーン明けの時期が懸念された。

本年の登山時期の9月～10月にかけて、この山域の天候を支配するのは以下の要素である。

- 1) ベンガル湾からのモンスーン気流（南西暖湿気流）の流入
- 2) ジェット気流の強風軸の南北変動
- 3) 偏西風波動に伴う上層の気圧の谷の通過
- 4) サイクロンの通過

これらの要素が入り乱れて発生するため、9月～10月は天候予測が複雑な時期となっている。

本年のBC入り以後の天気概況は以下のとおりである。

9月11日から10月6日までは、モンスーンの悪天と中休みの好天が交互に訪れた。日中に対流性の雲が発生・発達し夜間に消滅するという日変化の天気パターンが多く、上層の顕著な気圧の谷の通過に伴う悪天はほとんど見られなかった。この期間は、雲量が多いが比較的降水量が少ない日が多く、また上部の風も弱くて、前半の行動予定を順調に消化できた。また、10月7日から10月11日までは、モンスーン気流の流入がなくなり、気温も低下して、モンスーン明けを思わせる好天であった。

ところが、第1次アタック中の10月12日に、いったん北西方向に去ったサイクロンが向きを急速に東に変え、弱まりながらも現地付近を通過し、本格的な悪天が訪れた。この後、モンスーン気流が再び現地付近に流入して悪天が長く続くことになる。この期間は、多量の降雪による雪崩の危険、上空の強風等の悪条件が重なり、第1次アタックは中止せざるを得なかった。また、10月14日～24日は夜間の降雪が顕著で、早朝出発時に雪崩の危険に見舞われるため、停滞が続いた。そのため、この間に行われた第2次アタックも、C4までで撤退せざるを得なかった。この期間は、短時間で天候がめまぐるしく変化し、特に天気予測の難しい時期であった。

1. 高所登山の実践と今後の課題

しかし、10月25日を境にモンスーン気流の流入がなくなる。26、27日は現地のすぐ北側を気圧の谷が通過したため、晴天だったにもかかわらず上空の風は強かった。しかし、28日から31日までは、上層の気圧の尾根部にはいったため、ようやく本格的なポストモンスーンの好天が訪れた。第3次アタックは、この束の間の好天・弱風時に行われ、成功を収めた。好天は10月31日まで続き、アタック隊は安全圏まで下山したが、それを待つように11月上旬からジェット気流の南下に伴う強風が吹き荒れ、ナムチャバルワは冬の様相を呈し始めた。

BC入り以後の気象変化は、おおまかに次の各ステージに分けられる。

- 1) 9月11日～10月11日 モンスーンによる悪天と中休みの好天。
- 2) 10月12日～10月24日 サイクロンの通過とモンスーンの戻りによる悪天、夜間の悪天。
- 3) 10月25日～10月31日 モンスーン明けの好天。このうち10月28日～31日は気圧の尾根に入り好天弱風。
- 4) 11月1日～ ジェット気流の強風軸の南下に伴う強風、気温の低下。

なお、今回の登山隊では、日本気象協会のご支援、ご協力を得て、高層天気図（現況・予想）、気象情報を毎日FAXにてBCに送信していただき、この情報が登山成功の大きな支えになった。

また、現地でも下記の気象観測システムを導入して詳細な気象データの収集に努め、この情報をFAXにて日本気象協会に送信することにより予報精度の向上を図った。

○現地での気象観測

1) 自動気象観測システム（気象ロボット）

BC（3520m）及びC3（5600m）において、気温、湿度、風向、風速、雪温勾配の1時間毎の自動計測を実施、得られたデータを無線を使用してBCで毎日回収し分析した。

（使用した機器）

- ・自動気象観測システム及び無線データ通信システム 白山工業株式会社

2) 気象衛星NOAAの雲画像の受信

BCで、気象衛星の雲画像を1日4回受信し、雲の分布と変化を追跡した。

（使用した機器）

- ・海洋気象衛星「NOAA」受信システム 日本船用エレクトロニクス株式会社

3) 気象ファクシミリによる現地での天気図の受信

BCで、小型気象ファクシミリにより、北京とニューデリーからの気象情報（高層天気図等）を受信し、現地気象情報の収集に努めた。

（使用した機器）

- ・小型気象ファクシミリJAX-9 日本無線株式会社
(ナムチャバルワ登山隊気象担当)